

宇治市男女共同参画計画  
第5次UJIあさぎりプラン  
令和4年度実施状況等報告書

宇治市 人権環境部 男女共同参画課

## 目 次

I	はじめに	1
II	「第5次UJIあさぎりプラン」の実施状況及び評価等について	1
III	「第5次UJIあさぎりプラン」の体系	2
IV	「第5次UJIあさぎりプラン」の推進に係る目標値及び指標値	3
V	事業に関する評価	4
VI	第5次UJIあさぎりプラン令和4年度実施状況及び令和5年度実施計画	5
VII	男女共同参画の推進に関する市民アンケート調査について	17

## I はじめに

「第5次UJIあさぎりプラン」は実効性のあるアクションプラン（行動計画）とするため、できる限り具体的な目標値または指標値を設定するとともに、年次に作成する実施計画で具体的に示し、実施後に施策の進捗状況の評価を行います。

この報告書は、宇治市男女生き生きまちづくり条例第18条の規定に基づき、男女共同参画の推進に関する施策の実施状況の年次報告書として公表します。

## II 「第5次UJIあさぎりプラン」の実施状況及び評価等について

次のとおり「第5次UJIあさぎりプラン」の実施状況を把握し、評価します。

### 1. 「第5次UJIあさぎりプラン」の推進に係る目標値及び指標値

プランで設定している目標値及び指標値の達成状況です。

担当課の事業実績と、市民アンケートにより把握します。

### 2. 事業実施状況及び評価

担当課より前年度の事業実績と実施結果及び課題の報告を受け、次の評価方法により実施状況を個別に評価するとともに、全体と基本方向ごとに評価します。

実施事業の成果に対する評価で、年度当初に計画された「目標値」と「実績」の比較により、「A」「B」「C」「D」の4段階で評価します。

評価	実施結果	達成度【実績値／目標値】
A	計画どおりか計画を上回る実施で男女共同参画の推進に寄与できた	目標値と同程度以上 90%以上
B	概ね効果的、順調に実施できている	ほぼ目標値を達成 70%以上 90%未満
C	実施しているが、効果的な実施に向けて内容の見直しが必要	目標値を下回った 70%未満
D	実施できていない	

### 3. 事業実施計画

担当課より本年度の実施計画事業の取組内容と目標値の報告を受け、本年度の実施計画とします。

### 4. 市民アンケート

市民アンケートを実施し、指標値となっている項目を把握します。

### Ⅲ 「第5次UJIあさぎりプラン」の体系

重点課題	基本方向	計画課題	推進施策
固定的な性別イメージの解消 女性の活躍推進とエンパワーメント 家事・育児・介護等の場における 男女共同参画のさらなる推進 女性に対する暴力の根絶と相談支援体制の強化 地域防災における男女 共同参画の推進	意識の浸透 基本方向1 可能なにする 多様な選択を 男女共同参画	(1) 男女の人権の確立とジェンダー平等の浸透	①固定的な性別イメージの解消に向けた意識啓発 ②人権及び男女共同参画に関する相談の充実 ③メディア・リテラシー向上のための教育の推進
		(2) 幼少期からの多様な選択を可能なにする教育の推進	④男女平等・男女共同参画教育・学習の推進 ⑤教育関係者等に対する人権・男女共同参画研修の充実
		(3) 生涯学習等を通じた男女平等意識の醸成	⑥男女共同参画の視点に立った生涯学習の推進 ⑦市民の生涯学習活動の支援
	市女性活躍推進計画 基本方向2 ける女性の活躍の推進 〔宇治市女性活躍推進計画〕	(4) 職業生活における男女共同参画の推進	⑧男女が共に働きやすい職場環境づくりの促進 ⑨職業分野における女性の活躍推進 ⑩女性の就業や経営参画の支援
		(5) 政策・方針決定過程への女性の参画拡大	⑪本市審議会等への女性委員の登用推進 ⑫企業・地域団体等の役職における女性登用の促進 ⑬市職員における女性登用の推進
		(6) 女性のチャレンジ支援	⑭女性のチャレンジを可能にする環境整備 ⑮女性活躍に向けたネットワークづくりの支援
	性活躍推進計画 基本方向3 フ・バランス（仕事と生活の調和）の実現 【宇治市女性活躍推進計画】	(7) 男性にとっての男女共同参画の推進	⑯男性の家事・育児・介護等の参画促進に向けた学習機会の提供 ⑰男性のための相談の充実
		(8) 仕事と育児・介護等との両立支援	⑱ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の実現に向けた意識啓発 ⑲仕事と育児の両立を可能にする環境整備 ⑳仕事と介護の両立を可能にする環境整備 ㉑職場における両立支援の促進
		(9) 女性に対するあらゆる暴力の根絶	㉒性に基づくあらゆる暴力を許さない社会意識の浸透 ㉓女性に対するハラスメント防止の強化
	基本方向4 安全・安心な暮らしの実現	(10) 配偶者等に対する暴力の根絶 【宇治市 DV 対策基本計画】	㉔相談体制と被害者支援の充実 ㉕関係機関等との連携強化
		(11) 困難な状況を抱えた女性等への支援と多様性を尊重する社会づくり	㉖生活上の困難に直面した女性等への支援 ㉗高齢者、障害者、外国人、性的少数者等が安心して暮らせる地域社会づくり
		(12) 生涯を通じた男女の健康支援	㉘リプロダクティブ・ヘルス／ライツに関する普及・啓発 ㉙発達段階に応じた性教育・健康教育の推進 ㉚生涯の各時期に応じた心身の健康対策の推進
	の推進 基本方向5 協働による男女生き生きまちなづくり	(13) 地域防災における男女共同参画の推進	㉛男女共同参画の視点を取り入れた地域防災活動の推進 ㉜男女共同参画の視点に立った災害時の対応の推進
		(14) 市民等との協働の推進	㉝男女共同参画のまちづくりに向けた市民活動の促進 ㉞市民等との連携・協働事業の推進

#### IV 「第5次UJIあさぎりプラン」の推進に係る目標値及び指標値

項目		目標値 指標値 令和7年	プラン 策定時 (令和元年)	令和4年度 (令和3年度)	令和4年度 達成率	達成率 前年度比
基本 方向 1	「男女共同参画社会」という言葉の認識度※1	80%	71.8%	75.4% (67.9%)	94.3%	↑
	「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）」という言葉の認識度 ※1	80%	67.3%	94.9% (90.1%)	118.6%	↑
	「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に反対する割合 ※1	60%	52.7%	59.4% (59.2%)	99.0%	↑
基本 方向 2	本市管理監督者への女性職員の登用割合 ※2	25%	22.1%	22.5% (22.5%)	90.0%	→
	本市審議会等における女性委員の登用割合 ※2	40%	28.6%	32.6% (32.1%)	81.5%	↑
	女性委員がいない本市審議会等（女性委員がいない本市審議会等の数/本市審議会等の数）※2	0	11/94	8/82 (8/82)	-	-
基本 方向 3	「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認識度 ※1	70%	60.5%	70.9% (66.7%)	101.3%	↑
	本市男性職員の育児休業取得率（取得者数/対象者数）※2	30%	11.1%	46.0% (27.1%)	153.3%	↑
基本 方向 4	男女共同参画支援センター（ゆめりあうじ）女性のための相談窓口の認知度 ※1	30%	18.4%	16.0% (16.0%)	53.3%	→
	「デートDV」という言葉の認識度 ※1	40%	27.4%	70.3% (70.3%)	175.8%	→
基本 方向 5	地域活動へ参加したことがある人の割合 ※1	80%	70.3%	59.5% (56.8%)	74.4%	↑

※1 は、指標値で、市民アンケートにより把握する数値です。

※2 は、目標値で、担当課への進捗状況調査により把握する数値です。

言葉の認識度では「ジェンダー」「デートDV」は高く、既に目標を上回っており、今回は「ワーク・ライフ・バランス」が目標値を上回りました。

「男女共同参画社会」についても前回の数値減少から、今回は数値上昇に転じました。また、男性職員の育児休業取得率については、大幅な上昇となり、本計画期間で初めて目標値を上回りました。

今回は悪化した数値はありませんでしたが、引き続き啓発に努めてまいります。

## V 事業に関する評価

### 事業全体の評価

評価	事業数	割合
A	56	60.2%
B	23	24.7%
C	14	15.1%
D	0	0%
合計	93	

事業全体では、A評価とB評価で84.9%となり、多くの事業が計画どおりか、概ね効果的、順調に実施できていました。

基本方向ごとでは、2の「あらゆる分野における女性の活躍の推進」では、A評価が81.0%となっていますが、5の「協働による男女生き生きまちづくりの推進」では、33.3%となっており、地域防災における男女共同参画について、さらに推進していく必要があります。

### 基本方向1 多様な選択を可能にする 男女共同参画意識の浸透

重点課題 固定的な性別イメージの解消

※基本方向4 ㉔を含む

評価	事業数	割合
A	21	72.4%
B	6	20.7%
C	2	6.9%
D	0	0%
合計	29	

### 基本方向2 あらゆる分野における 女性の活躍の推進

重点課題 女性の活躍推進と  
エンパワーメント支援

評価	事業数	割合
A	17	81.0%
B	3	14.2%
C	1	4.8%
D	0	0%
合計	21	

### 基本方向3 ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)の実現

重点課題 家事育児介護等の場における  
男女共同参画のさらなる推進

評価	事業数	割合
A	9	64.3%
B	0	0%
C	5	35.7%
D	0	0%
合計	14	

### 基本方向4 安全・安心な暮らしの実現

重点課題 女性に対する暴力の根絶と  
相談支援体制の強化

※基本方向2 ㉔を含む

評価	事業数	割合
A	14	46.7%
B	12	40.0%
C	4	13.3%
D	0	0%
合計	30	

### 基本方向5 協働による男女生き生き まちづくりの推進

重点課題 地域防災における男女共同参画  
の推進

評価	事業数	割合
A	3	33.3%
B	4	44.5%
C	2	22.2%
D	0	0%
合計	9	

# VI 第5次UJIあさぎりプラン令和4年度実施状況及び令和5年度実施計画

## 基本方向1 多様な選択を可能にする男女共同参画意識の浸透

【令和4年度の実績】

重点課題：固定的な性別イメージの解消

情報紙「リズム」等による情報発信や啓発を行うとともに、ホームページの内容充実を努めた結果、ホームページから相談につながった人が増加しました。また、コラムニストのジェーン・スーさんを講師に迎え、「価値観のアップデートを目指す」講演を実施し、定員を大幅に上回る278人の参加申し込みがあり、目標を達成することができました。

毎年発行している中学生用男女共同参画ハンドブックは、教育委員会の協力のもと、データを最新ものに差し替えるなど内容を更新しました。

幼少期からの多様な選択を可能にする教育の推進のための取組みの1つとして、女性問題アドバイザー派遣による子育て支援関係の職員研修を実施しましたが、アドバイザー派遣については令和4年度においても新型コロナウイルス感染症の影響が残り、目標が達成できませんでした。

【令和5年度の実施計画】

情報誌「リズム」による啓発や、ホームページの内容の充実をさらに進めます。固定的な性別イメージを解消するため、男女共同参画の啓発に関わる講演会や、セミナー等を実施し、さらに啓発をすすめます。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、不十分であった女性問題アドバイザーの派遣については、幼少期の子どもに関わる職員に対して実施する他、あらゆる場に積極的に呼びかけて実施していきます。

### ＜推進施策＞

①固定的な性別イメージの解消に向けた意識啓発／②人権及び男女共同参画に関する相談の充実⇒基本方向4の②に掲載／③メディア・リテラシー向上のための教育の推進／④男女平等・男女共同参画教育・学習の推進／⑤教育関係者等に対する人権・男女共同参画研修の充実／⑥男女共同参画の視点に立った生涯学習の推進／⑦市民の生涯学習活動の支援

計画課題	推進施策	R4実施計画事業名	現担当課	R4成果目標	R4目標値	R4実績	R4実施結果及び課題	評価	R5実施計画取組内容	R5目標値
男女の人権の確立とジェンダー平等の浸透	①	ホームページの充実による情報発信	男女共同参画課	相談経路がホームページ	45件	53件	HPの内容を見やすくわかりやすくなるように心がけた。見た人を啓発できるよう、さらに内容を充実させていく。	A	ホームページの内容を充実し、男女共同参画の啓発を行うことにより、相談や事業の参加につながりやすくなる。	45件
		情報紙「リズム」の内容の充実	男女共同参画課	紹介記事掲載回数	2回	2回	商工会議所と連携し、市内で女性の活躍や両立支援等を積極的に推進している事業所を「リズム」で紹介した。	A	男女共同参画の啓発を行うほか、市内の女性活躍事業所やロールモデルとなる女性を紹介する。	2回
		男女共同参画基礎講座開催	男女共同参画課	参加者数	50人	32人	宇治市男女共同参画審議会前会長の桂容子氏を講師に迎え、「アンコンシャス・バイアス」をキーワードとして戦後の男女共同参画全般の歩みと今後の展望についての講座を実施した。	C	重点課題に沿った内容の市民向け講座を実施し、男女共同参画の啓発に努める。	50人
		職員向けゆめりあ通信発行	男女共同参画課	発行回数	5回	5回	正確な閲覧者数は把握していないが、男女共同参画に関わるタイムリーな話題を題材に庁内掲示板への掲載により発行した。	A	職員に関心をもってもらえるよう、タイムリーな話題を題材に啓発を実施する。	5回
		男女共同参画週間UJIのつどい開催	男女共同参画課	参加者数	100人	106人	コラムニストのジェーン・スーさんを講師に招き、「価値観のアップデート」をめざす講演を実施した。話題性が高く、市内外から278人の参加申し込みがあり、多くの方にセンターを知ってもらう機会にもなった。	A	性別にとらわれず活躍する著名人の講演会を実施し、週間の啓発を図るとともにセンターの周知を図る。	100人
		人権に関する研修の実施	人権啓発課	実施回数	1回	1回	身近に感じる人権講座において、国際女性デーの取り組みを行った。今後も、男女共同参画の視点を盛り込んだ講座を開催する。	A	人権啓発課主催の講座開催時に男女共同参画課の視点を盛り込む。	1回
		実施事業での広報	人権啓発課	実施	-	実施	事業開催時に、男女共同参画課のチラシの配布等を行った。	B	身近に感じる人権講座開催時に男女共同参画課の事業の広報を行う。	実施
		人権研修実施	人権啓発課	実施	-	実施	宇治市第2次人権教育・啓発推進計画の説明等、人権研修実施の際に、男女共同参画のことを研修に盛り込んだ。	B	人権研修実施の際に、男女共同参画のことを研修に盛り込む。	実施

計画課題	推進施策	R4実施計画事業名	現担当課	R4成果目標	R4目標値	R4実績	R4実施結果及び課題	評価	R5実施計画取組内容	R5目標値
男女の人権の確立とジェンダー平等の浸透	①	職員研修の実施	人事課	実施回数	10回	15回	感染症対策を講じながら新規採用職員研修や管理監督者研修にて実施を図った。目標達成に向けて、今後も継続した実施が必要である。	A	新規採用職員研修や監督者研修等で、人権研修や男女共同参画に関する研修を実施する。	15回
		男女共同参画の視点に立った表現の徹底	秘書広報課	実施	通年	24回	市政だより等の編集業務において、男女共同参画の視点に立った表現を徹底し、その考え方の普及に努めた。	A	広報物に男女共同参画の視点に立った表現を徹底する	24回
	③	女性問題アドバイザー派遣の推進	男女共同参画課	実施回数	18回	8回	アドバイザーが2人体制となり、男女共同参画についてより幅広いテーマの内容で派遣ができるようになったが、コロナの影響が続いており数がのびていなかった。	C	広く派遣依頼を呼びかけるとともに、SNS等においても啓発を実施する。	12回
		情報ライブラリーの図書展示活用	男女共同参画課	貸出件数	1,700件	1731件	「リズム」の記事や、キャンペーン・イベントに合わせた図書紹介および図書展示を行い、蔵書の貸し出し促進に努めた。	A	「リズム」の記事や、スタッフのおすすめ等の展示を工夫し、蔵書の貸し出しを促進する。	1,700件
幼少期からの多様な選択を可能にする教育の推進	④	中学生用男女共同参画ハンドブックの発行	男女共同参画課	実施回数	1回	1回	最近の情勢にあった内容となるよう、教育委員会と協議し、データを最新のものに差し替え内容の更新を行った。また、HPの掲載を行った。	A	情報誌などに掲載し、多くの方に見て頂く工夫をする	1回
		男女共同参画ハンドブック（中学校向け）の活用	学校教育課	実施校	10校	10校	10校において学級活動等で男女共同参画ハンドブックを配布し、男女共同参画社会についての学習に活用した。	A	中学校においてハンドブック等を活用し、男女共同参画社会についての学習を実施する。	10校
		子育て支援関係職員の研修実施	こども福祉課	実施	-	実施	地域子育て支援拠点の担当者に向け、「子どもたちのシアワセな未来のために」をテーマに研修を実施。子育て相談等の対応力向上が図れた。	B	子育てひろばのスタッフに向けて、男女共同参画についての啓発とともに相談窓口の周知を行う。	実施
	⑤	教職員の人権教育研修	学校教育課	実施	-	53名	本市幼稚園、小・中学校の教職7年目、12年目の教員を対象に、人権教育にかかる市教職員研修講座を実施した。	B	人権教育にかかる市教職員研修講座と、各学校での研修参加者による報告研修会を実施する。	実施
		育成学級指導員研修の実施	こども福祉課	実施回数	1回	1回	保育現場における男女共同参画についての研修を実施することができ、育成学級指導員の資質を向上できた。	A	育成学級指導員に向けて男女共同参画に関する研修を実施する。	1回
		保育所職員研修の実施	保育支援課	参加人数	7人	7人	公立所長会で研修を行い、各施設での啓発につながった。（公立・民間は隔年で実施）	A	民間園長会にて男女共同参画研修の機会を設け、各施設で啓発に努める。	19人
生涯学習等を通じた男女平等意識の醸成	⑥	男女共同参画視点の講座を実施	生涯学習課	実施回数	4回	4回	性別を問わずシニアのセカンドライフ支援のため、講座（大学教授等による講演、ボランティア活動者の発表、参加者の交流）を行った。より男女共同参画の視点に立った講座の企画に努める。	A	各種事業実施において、男女共同参画への意識を高める働きかけを行う。	4回
		男女共同参画の啓発	中央図書館	実施回数	1回	1回	男女共同参画週間に合わせたテーマ展示「世界で活躍する女性たち」を行った。	A	男女共同参画をテーマとした図書展示による啓発を実施する。	1回
	⑦	男女共同参画課との共同企画を実施する	東宇治図書館	実施回数	各1回	1回	3月8日の国際女性デーに合わせたテーマ展示「違いを認めあおう」による啓発を実施した。	A	男女共同参画をテーマとした図書展示による啓発を実施する。	1回
		男女共同参画課との共同企画を実施する	西宇治図書館	実施回数	1回	1回	オレンジリボン・パープルリボンキャンペーンに合わせ、テーマ展示で啓発を行った。	A	男女共同参画をテーマとした図書展示による啓発を実施する。	1回

## 基本方向 2 あらゆる分野における女性の活躍の推進

【宇治市女性活躍推進計画】

重点課題：女性の活躍推進とエンパワーメント支援

### 【令和4年度の実績】

女性のチャレンジ支援として「自分らしく働くための仕事づくり」と題し、パラレルキャリアの始め方、創業の基礎知識、ブランディングで選ばれる人になるをテーマとして、3回連続講座を実施しました。平日開催のため、就労中の方が参加しづらい状況でありましたが、目標を上回る参加がありました。また、これまでから実施してきた女性の起業や何かやりたいという気持ちを支援する「ここからチャレンジ相談」を活かす場の一つとして「ここからチェンジマルシェ」を、UJIあさぎりフェスティバルなどのイベントに合わせて、毎回テーマを決め、男女共同参画についての啓発も兼ね、ゆめりあうじ前の広場で年4回（のべ8日）実施しました。最近関心が高いマルシェを実施することで、出店者に若い女性の参加を呼び込み、多くの集客につながりました。

男女が共に働きやすい職場環境づくりを推進するため、市内の事業所に向けて、商工会議所、産業振興課と連携し、労政ニュースに記事を掲載した他、両立支援の推進や女性が活躍する事業所を訪問し、情報誌「リズム」への掲載を行いました。また、市職員や教職員への研修を実施しました。

政策決定等の場面での女性の割合増加のため、審議会の女性委員の割合の増加、市職員の管理職への登用や消防職員の女性採用に努めましたが、一部項目で目標を達成することができませんでした。

### 【令和5年度の実施計画】

令和5年度も、女性が自分らしく働くためのセミナーを実施するほか「ここからチャレンジマルシェ」や「ここからチャレンジ相談」などの実施により、女性のチャレンジを支援するとともに、ネットワークづくりを促進します。

政策決定等の場面での女性の参画拡大のため、審議会の女性委員割合の増加等を促進します。また、働きやすい職場環境作りのため、研修の実施や情報紙などによる啓発を行います。

#### 《推進施策》

⑧男女が共に働きやすい職場環境づくりの促進／⑨職業分野における女性の活躍推進／⑩女性の就業や経営参画の支援／⑪本市審議会等への女性委員の登用推進／⑫企業・地域団体等の役職における女性登用の促進／⑬市職員における女性登用の推進／⑭女性のチャレンジを可能にする環境整備／⑮女性活躍に向けたネットワークづくりの支援

計画課題	推進施策	R4実施計画事業名	現担当課	R4成果目標	R4目標値	R4実績	R4実施結果及び課題	評価	R5実施計画取組内容	R5目標値
職業生活における男女共同参画の推進	⑧	職員研修の実施	人事課	実施回数	10回	15回	感染症対策を講じながら新規採用職員研修や管理監督者研修にて実施を図った。目標達成に向けて、今後も継続した実施が必要である。	A	各階層別研修に人権研修をはじめ、男女共同参画研修を取り入れ実施し、担当部局職員へ積極的な参加を呼びかける。	15回
		教職員向けのパワハラ・セクハラ研修の実施	教育総務課	実施回数	各校1回以上	全校実施	年度当初や夏季研修時等において、ハンドブック等を活用して実施。女性問題アドバイザーの活用はなかった。	A	ハラスメント防止のため、各校で「京都府立学校教職員コンプライアンスハンドブック」等の資料を用いて、教職員研修を実施。また、研修の実施に際して、各校へ女性問題アドバイザーの派遣を促し検討する。	各校1回以上
		労政ニュースの発行	産業振興課	掲載回数	1回	2回	労政ニュース161号に、女性活躍推進法に関する制度改正により「情報公表項目」に男女の賃金の差異が追加された記事を、労政ニュース162号に、京都府の最低賃金に関する記事を掲載した。	A	労政ニュースに男女が共に働きやすい職場環境づくりの促進や、女性の活躍推進に関する記事を掲載する。	1回
	⑨ ⑫	市内事業所に向けた職場環境づくりや女性活躍啓発	男女共同参画課	実施	4回	5回	男女が働きやすい職場環境づくりや女性が活躍している事業所を「広報うじ」「リズム」に掲載したほか、労政ニュースでも両立支援の制度等を掲載し、啓発を行った。	A	男女が働きやすい職場環境づくりや女性の活躍推進に向け、各制度等を「リズム」、商工会議所の会報、介護サービス事業所対象の広報、労政ニュースで啓発する。	4回
⑩	「京力農場プラン」更新検討会実施	農林茶業課	女性構成員割合	40%	36%	検討会構成員11名のうち4名が女性となった。	A	構成員に概ね4割以上の女性農業関係者を加える。	40%	

計画課題	推進施策	R4実施計画事業名	現担当課	R4成果目標	R4目標値	R4実績	R4実施結果及び課題	評価	R5実施計画取組内容	R5目標値
政策・方針決定過程への女性の参画拡大	⑪	審議会の女性委員登用推進	男女共同参画課	女性0人の審議会数	7審議会	8審議会	女性委員の登用を積極的に促進するよう各部長及び所属長に周知し啓発に努めた。女性委員が0人だった審議会は6審議会に減少したが、令和4年度から開始された審議会で2審議会が0人であったため、結果的に前年度よりも増加となった。	B	女性委員の登用を積極的に促進する文書を全所属に通知するとともに、登用率の低い審議会等を所管する所属に改善策の検討を求める。	7審議会
		審議会の女性委員登用推進	男女共同参画課	女性委員の登用割合	33.2%	32.60%	女性委員の登用を積極的に促進するよう各部長及び所属長に周知し啓発に努めた。	A	女性委員の登用を積極的に促進する文書を全所属に通知するとともに、登用率の低い審議会等を所管する所属に改善策の検討を求める。	33.0%
	⑬	女性の職域の拡大を実施	人事課	女性が配置されていない職場数	13課	11課	現在全職員数の内、女性職員数が約3割、そのうち6割が保育士、幼稚園教諭、調理師であり、勤務職場が限られている。その上で全課に女性職員を配属するのは、職場の男女比率等の関係から、非常に難しい状況ではあったが、改善に努めた。	A	女性職員の人事異動にあたって特定業務への配置解消、女性の職域拡大に配慮できる職場づくりを推進する。	11課
		管理監督者登用促進	人事課	女性職員管理監督者数	22.7%	22.5%	人事の登用は、男女に関わらず職員の能力・実績に基づいて公正・公平に行うものであり、登用の判断基準となる能力発揮の機会を積極的に提供し、職域の拡大を図ったが、目標達成には至らなかった。目標達成に向けた更なる取り組みが必要となる。	A	人事の登用は、男女に関わらず職員の能力・実績に基づいて公正・公平に行うものであり、登用の判断基準となる能力発揮の機会を積極的に提供し、職域の拡大を図る。	22.7%
		次世代育成支援特定事業主行動計画周知事業	人事課	周知回数	4回	3回	宇治市次世代育成支援特定事業主行動計画の周知を行った。目標達成に向け、各種研修等で周知を行い、育児・介護休業を取得しやすい環境づくりに努める。	B	宇治市次世代育成支援特定事業主行動計画の周知を行い、育児・介護休業を取得しやすい環境づくりに努める。	4回
		女性職員採用拡大	消防総務課	女性職員採用	1人	0人	採用試験申込者84名のうち女性5名の申し込みがあったものの、採用には至らなかった。女性の受験者数の増加を図るため、更なる啓発を行う必要がある。	C	女性職員採用拡大のため、官公庁合同就職説明会への参加や専門学校における就職説明会等を実施し、女性受験者増加への啓発を実施する。	1名
		女性職員職域拡大	消防総務課	女性職員職域拡大	4人	4人	新規採用者の1名をこれまで配置の無かった隔日勤務消防隊へ配置し、職域の拡大を図った。	A	現在の職場配置での検証を行うとともに、更なる職域拡大に向けた検証を行う。	4名
女性のチャレンジ支援	⑭	自分らしく働くための仕事づくりセミナー実施	男女共同参画課	参加人数	20人	のべ53人	パラレルキャリアの始め方、創業の基礎知識、ブランディングで選ばれる人になる、をテーマに3回連続講座を実施した。平日昼間の開催だったため、現在就労している人には参加しづらいとの声もあり、今後開催日程については検討が必要である。	A	デジタル・トランスフォーメーション(DX)をテーマにしたセミナーを開催する。	のべ60人
		ここからチャレンジ相談実施	男女共同参画課	起業・事業した人数	10人	10人	相談者を市民企画サポート事業に3人、ここからチャレンジマルシェ出店6人、健康セミナー講師として1人をつなぎ、活動を広げる機会となった。	A	女性がチャレンジできる場として、市民企画事業、マルシェ、あさぎりフェスへの企画参加などにつなぐ。	15人
		ここからチャレンジマルシェ実施	男女共同参画課	開催回数	2回	4回	出店をきっかけに、自己価値に気づき、他の出店者とのネットワークをつくり、新たな分野への活動を広げる機会にもなった。出店者募集時にセンター事業の目的を提示し、出店説明会でマルシェの開催目的を伝え、センターと出店者が協働したマルシェを開催することができた。出店者が固定化せず、新しい出店者が参加できるような仕組みづくりが課題。	A	センター事業に合わせて、チャレンジする女性を支援するためのマルシェを実施する	4回
		就労支援のためのセミナー実施	男女共同参画課	参加人数	60人	44人	マザーズジョブカフェと共催し、エクセル講座を2日間にかけて実施した。	B	マザーズジョブカフェと共催し、就業支援のためのセミナーを実施する。	50人
		女性起業家セミナー等実施	産業振興課	実施回数	1回	1回	女性起業家や起業に興味がある人等を対象に、先輩起業家によるセミナーや交流会等を開催した。日程の都合上、産業振興課単独で実施した。	A	女性の起業のためのセミナー等を男女共同参画課と共催で実施する。	1回

計画課題	推進施策	R4実施計画事業名	現担当課	R4成果目標	R4目標値	R4実績	R4実施結果及び課題	評価	R5実施計画取組内容	R5目標値
女性のチャレンジ支援	⑭	紫式部文学賞・同市民文化賞実施	文化スポーツ課	市民文化賞女性応募者数	15人	21人	作品募集チラシを公共施設や書店、コンビニなどに送付するとともに、市ホームページやSNSで広報し、応募数を増加させる工夫をした。応募総数は前年より増加した。	A	作品募集チラシ・ポスターを公共施設等に配布し応募を募るとともに、引き続き、市ホームページやSNS広報を行う。	15人
		自立支援事業	産業振興課	掲載回数	12回	12回	市政だよりにより商工会議所の技能習得講座、城南地域職業訓練センターにおける技能実習の記事を掲載し、広報を行った。	A	宇治商工会議所の技能習得講座や城南地域職業訓練センターにおける技術講習への参加催促を図るため、パンフレットを配布し、市政だよりでの広報を行う。	12回
		宇治市健康づくり・食育アライアンス事業	健康づくり推進課	加入団体数	80団体	86団体	健康づくり・食育関連団体の加入を増やすことができた。健康づくりや食育の推進及び健康づくり・食育アライアンスの普及啓発のためのイベント等の各種事業を実施することができた。U-CHAの市民認知度はまだまだ低いいため、さまざまな活動や広報を通じて、周知していく必要がある。	A	引き続き、健康づくり・食育関連団体に健康づくり・食育アライアンスの加入を促し、イベント等各種事業を通じて加入団体同士の交流を深め、地域での健康づくり・食育活動をより一層活性化させる。	90団体
	⑮	起業カフェyukichiの実施	男女共同参画課	参加人数	30人	28人	多種多様な活動をしている女性が参加し、活発に意見交換した。交流はできているものの、毎回参加者が変わるので、ネットワークの形成には至っていない。	A	起業している女性や、起業しようとしている人、活動を広げていきたい人などの交流を図り、ネットワークの形成や事業展開などについて意見交換する。	30人

# 基本方向3 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の実現

【宇治市女性活躍推進計画】

重点課題：家事・育児・介護の場における男女共同参画のさらなる推進

## 【令和4年度の実績】

家事・育児・介護等の場における男女共同参画の啓発のため、男性のための男女共同参画講座として、未就学児と一緒に遊んだ後に、座学と座談会を実施する3回連続のセミナーを開催しました。男性対象の講座は、内容は好評であっても参加希望者が少なく、集客にかなりの努力を要するため、どうすれば参加者が増えるのか、引き続き内容や広報の検討が課題となりました。

本計画では男性市職員の育児休業取得率は、30%を目指していましたが、令和4年度は46%と大幅に上昇し、初めて目標を達成しました。

男性電話相談については、目標件数を若干下回っているため、今後、作成した相談案内カード等による効果的な啓発が必要と思われます。

## 【令和5年度の実施計画】

令和5年度も男性を対象として子育てや家事、生きづらさを考えるセミナーを実施します。男性職員の育休取得率の増加を目指すとともに、育児パパセミナーや、市民対象のパパママ教室の男性参加者の増加に努めます。

男性が気軽に電話相談できるよう、相談案内カード等による啓発を進めます。

講座や相談について、男性の参加者はなかなか集まらない傾向があることから、広報の方法を検討しながら、集客に努めていきます。

### 《推進施策》

⑯男性の家事・育児・介護等の参画促進に向けた学習機会の提供／⑰男性のための相談の充実／⑱ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた意識啓発／⑲仕事と育児の両立を可能にする環境整備／⑳仕事と介護の両立を可能にする環境整備／㉑職場における両立支援の促進

計画課題	推進施策	R4実施計画事業名	現担当課	R4成果目標	R4目標値	R4実績	R4実施結果及び課題	評価	R5実施計画取組内容	R5目標値
男性にとつての男女共同参画の推進	⑯	男女共同参画週間UJIのつどい開催	男女共同参画課	-	-	-	-	-	基本方向1で実施	-
		男性向けセミナーの実施	男女共同参画課	男性参加者数	のべ60人	のべ22人 (パパのみ集計)	パパと未就学児で一緒に遊んだ後に座学と座談会を実施する3回連続の男性講座として実施した。子ども同伴の講座としたため、会場のキャパシティから成人男性の参加は少数となった。	C	男性が家事・育児・介護等に積極的に取り組めるような3回連続講座を開催する。	のべ60人
		男性の育児参加促進	保健推進課	パパママ教室男性参加者数	180人	220人	土曜日実施にするなど父親が参加しやすい設定で実施し参加者が増えている。一部教室ではキャンセル待ちが発生しており希望者が参加できるよう対策が必要。	A	父親が参加しやすい日程で実施することを継続し、待機者をなくして、希望者が全員受講できるような方法を検討する。	250人
		男性のための料理教室実施	人権啓発課	参加者数	10人	5人	料理教室をきっかけに、固定的な役割分担について振り返ってもらえた。新型コロナウイルスの影響により、募集定員を減らし実施した。	C	男性を対象とした料理教室を実施し、男女の役割分担について考える機会を提供する。	10人
		介護者のためのリラックス講座等開催事業、認知症家族支援プログラム、OB会の実施	長寿生きがい課	参加者数	130人	84人	認知症家族支援プログラム及びOB会を開催し、介護者同士の交流から心身の安定を得ることができている。ケアマネジャー等と連携し、プログラムの周知啓発については今後も必要である。	C	認知症家族支援プログラムでは、認知症の介護方法等の学習の機会として、年6回開催。認知症家族支援プログラムOB会では、介護者同士のピアサポートの機会として、月1回開催。	130人
		初期認知症総合相談支援事業	長寿生きがい課	相談者数	1300人	1316人	認知症コーディネーターへの電話・来所による個別相談や認知症対応型カフェの機会における介護者の相談に対応した。認知症介護者の相談先の周知啓発については今後も必要である。	A	認知症コーディネーターを市内2か所に配置し、平日9時～17時に相談対応を実施。また、日常生活圏域において、認知症対応型カフェを各圏域で年3回実施。	1300人
	食育事業等への男性の参加者の増加	健康づくり推進課	参加者数	100人	93人	引き続き、今後も男女問わず、幅広い世代を対象にした健康増進事業へ参加を促し、健康意識をもつ市民を増やす必要がある。	A	健康教育事業や健康づくり・食育アライアンス事業において、男性が参加しやすいプログラムを実施することで男性の参加を促し、健康に関する学習機会を提供する。	100人	
⑰	男性電話相談の実施	男女共同参画課	相談件数	48件	33件	前年度から相談啓発カードの配布等により啓発を行っている。相談件数は減少したものの、毎回数名の相談があるため。今後も相談の周知啓発に努める。	C	名刺サイズの男性相談啓発カードを作成しており、今後も公共施設の配架するなど、男性相談の周知啓発に努める。	48件	

計画課題	推進施策	R4実施計画事業名	現担当課	R4成果目標	R4目標値	R4実績	R4実施結果及び課題	評価	R5実施計画取組内容	R5目標値
仕事と育児・介護等との両立支援	⑱ ⑲ ⑳	市内事業者への情報発信	男女共同参画課	事業所掲載回数	2回	2回	商工会議所と連携し、「リズム」において市内で女性の活躍や両立支援等を積極的に推進している事業所を紹介したり、労政ニュースで両立支援等の情報を発信した。	A	両立支援等や女性活躍で先進的な取り組みをしている事業所を「リズム」や労政ニュースで発信する。	2回
		労政ニュースの発行	産業振興課	掲載回数	1回	2回	労政ニュース162号に、男性の育児休暇制度等及び両立支援助成金に関する記事を掲載した。 労政ニュース163号に、年次有給休暇取得環境整備に関する記事を掲載した。	A	労政ニュースに仕事と育児・介護等との両立支援や、ワークライフバランスに関する記事を掲載し、情報提供と啓発に努める。	1回
		放課後子ども教室の支援	教育支援課	参加人数	3,000人	4,110人	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じ、次の3校で実施した。 ①北横島小の「北横つながりプロジェクト」②笠取第二小の「笠二つ子クラブ運営委員会」③平盛小の「まなび(宿題)教室運営協議会」により平日の放課後や土曜日に子どもの居場所づくり活動として学習支援や自由遊び等を実施した。 教室を持続的に運営するための地域の安定した協力体制の構築などが課題であり、人材の確保等を検討する必要がある。	A	3校において、地域住民等で構成される推進組織の運営により、放課後等の学校において児童の遊びと学びの場を提供する。引き続き国の動向等を踏まえ、地域学校協働活動を推進していく中で、子どもの健全育成に向けた環境づくりを進める必要がある。	4,500人
	ファミリーサポート休暇周知事業	人事課	男性職員取得者数	299人	323人	ファミリーサポート休暇の周知推進を図ったことにより、目標達成となった。	A	ファミリーサポート休暇のさらなる周知により、男子職員の子の看護等、男子職員の育児参加の促進を図る。	350人	
	年休取得促進事業	人事課	平均取得日数	15日	16日	年休取得日数が向上するよう、職員への周知と、職場全体での取り組みの推進を図ったことにより、目標達成となった。	A	男女共同参画並びに業務における生産性の向上の両視点を踏まえて、職員が様々な角度から内容を理解し、年休取得率の向上を図る。	15日	
	⑳	育児パパセミナー開催	人事課	開催回数	1回	0回	制度改正に伴う庁内周知を実施。新たに勤務環境の整備に関する措置として、各所属において、妊娠・出産等申し出た職員に対する個別の周知・意向確認を行った。	C	「育児パパセミナー」を開催し、両立支援制度の活用率の向上を図る。	1回
	男性職員の育児休業取得促進事業	人事課	取得率	30%	46.0%	管理職員へ制度の周知を行う等、育児取得率の向上に努めたことにより、目標達成となった。引き続き、育児休業についての周知を徹底し、育児休業を取得しやすい環境づくりに努める。	A	育児休業に関する制度を周知し、取得の意向を確認するための面談等を実施するとともに職員研修や相談体制の整備等の育児休業に係る環境の整備を行い、さらなる取得率向上を図る。	30%	

## 基本方向4 安全・安心な暮らしの実現

### 【令和4年度の実績】

重点課題：女性に対する暴力の根絶と相談支援体制の強化

令和3年度からは相談担当の女性問題アドバイザーを配置し、予約のいらない電話相談を実施しており、相談件数が前年の約1.5倍に増加しました。併せて関係課に対し、女性問題アドバイザーの役割とともにDV（ドメスティック・バイオレンス）についても周知を行い、連携に努めました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響の下で様々な困難に対応しようと作成した、女性のための相談、男性のための電話相談の相談案内カードを、市内の公共施設に設置し、相談窓口の啓発に努めました。

オレンジリボン・パープルリボンキャンペーンでは、男女共同参画支援センターの関係団体に協力を呼びかけ街頭啓発を行いました。また、セミナーの開催や、市役所ロビーでの展示等によりDVや児童虐待の防止への啓発を行いました。

### 【令和5年度の実施計画】

DVについては、市民の理解が進みにくい状況であるため、オレンジリボン・パープルリボンキャンペーンでのDV対策の啓発をさらにすすめるとともに、関係課に対し女性問題アドバイザーの役割とDVについての周知を一層進めます。また、気軽に相談できる窓口として女性のための相談窓口のさらなる啓発に努めます。

女性のための相談の中では、パートナーとの関係の背景に経済的、精神的なDVがうかがわれることが少なくありません。このことから、女性が知識と力量をつけられるよう夫婦関係にまつわる法律セミナーを実施します。また、女性の相談では、DV等により自己肯定感が低い人が多く見られることから、トラウマケアのセミナーを実施します。

### 《推進施策》

⑳性に基づくあらゆる暴力を許さない社会意識の浸透／㉑女性に対するハラスメント防止の強化⇒基本方向2の⑧に掲載／㉒相談体制と被害者支援の充実／㉓関係機関等との連携強化／㉔生活上の困難に直面した女性等への支援／㉕高齢者、障害者、外国人、性的少数者等が安心して暮らせる地域社会づくり／㉖リプロダクティブ・ヘルス／ライツに関する普及・啓発／㉗発達段階に応じた性教育・健康教育の推進／㉘生涯の各時期に応じた心身の健康対策の推進

計画課題	推進施策	R4実施計画事業名	現担当課	R4成果目標	R4目標値	R4実績	R4実施結果及び課題	評価	R5実施計画取組内容	R5目標値
女性に対するあらゆる暴力の根絶	⑳	若年層の性暴力被害予防啓発	男女共同参画課	実施	-	実施	若年層の性暴力被害予防月間（4月）にFMうじの出演とオリジナルポスターの掲示と啓発図書の展示を行った。11月のパープルリボンキャンペーンでDV啓発を行った。	B	若年層の性暴力被害予防月間（4月）にFMうじの出演と市政だよりへの掲載、啓発ポスター、関連図書を展示し、11月のパープルリボンキャンペーンでも啓発を実施する。	実施
		オレンジリボン・パープルリボンキャンペーン	男女共同参画課	実施	-	実施	女性に対する暴力の根絶に向けて、オレンジ・パープルマルシェなどの街頭啓発を4回実施。また、エンパワーメント支援セミナーとして「トラウマケア」（全3回）を実施した。	B	女性に対する暴力の根絶に向けて啓発活動を行う。	実施
		オレンジリボン・パープルリボンキャンペーン	障害福祉課	実施	-	実施	障害者への虐待や暴力の根絶に向けてチラシを配架したが、今後さらなる普及に向けて啓発方法を検討する必要があると考える。	B	障害者への虐待や暴力の根絶に向けてキャンペーンで啓発する。	実施
		オレンジリボン・パープルリボンキャンペーンセミナー	こども福祉課	参加人数	100人	24人	「児童虐待と家族を支えるためにできること」をテーマにセミナーを実施した。コロナ発生以降、参加者数が減少しており課題である。	C	子どもへの虐待と女性に対する暴力の根絶に向けて、キャンペーンを実施するとともに、期間中にセミナー等を開催する。	100人

計画課題	推進施策	R4実施計画事業名	現担当課	R4成果目標	R4目標値	R4実績	R4実施結果及び課題	評価	R5実施計画取組内容	R5目標値
配偶者等に対する暴力の根絶「宇治市DV対策基本計画」	②4	予約のいらない電話相談事業	男女共同参画課	相談件数	100件	98件	平日の午前中の「予約のいらない電話相談」での対応以外にも、臨時の相談に対応するなど適切な情報提供を行った。	A	平日の午前中だけでなく、相談に対応し適切な情報提供を行う。	100件
		女性のための相談実施	男女共同参画課	相談件数	290件	360件	予約のいらない電話相談や臨時相談から、一般相談へ繋がるような支援を実施した。今後、さらに専門相談や関係課・機関に繋げられるよう努めたい。	A	予約のいらない電話相談や臨時相談から一般相談へ繋ぐことで、より細やかな支援を行い、関係課・機関へ繋がるよう努める。	300件
		女性のための相談（専門相談）実施	男女共同参画課	相談件数	140件	148件	専門相談として、フェミニストカウンセリング、法律相談、こころとからだの相談を実施した。	A	専門相談として、フェミニストカウンセリング、法律相談、こころとからだの相談を実施する。	150件
		相談カード、ステッカーの設置	男女共同参画課	設置箇所	100ヶ所	97ヶ所	関係機関へ設置した相談カードの補充を行った。新規設置場所の考察をする必要がある。	A	設置している関係機関へのカード、ステッカーの補充を行い、新規先を見つけてさらに周知ができるよう相談窓口の啓発に努める。	100ヶ所
		エンパワーメント支援セミナーの実施	男女共同参画課	参加者数	のべ24人	のべ20人	過去に虐待やDV、犯罪被害を受けた人に向け、自分を受する力を取り戻すための「トラウマ・ケア」と題して読書会を開催した。	B	女性が政策・方針決定過程への場に参画する上で役立つ、女性の学習機会を提供するとともに、参加者同士のネットワーク作りを目的として実施する。	のべ24人
	相談支援体制の強化	総務課 市民協働推進課 人権啓発課 生活支援課 障害福祉課 こども福祉課 保健推進課 長寿生きがい課 健康づくり推進課	実施	—	実施	こども福祉課（母が若年で出産した家庭への訪問）、障害福祉課（アルコール依存症、精神疾患の女性の一時保護相談）より依頼を受けて、同行した。支援者等への相談事業の周知が必要。	B	相談の際、各課の要請に応じて女性問題アドバイザーが同行支援を行う等連携し、必要な支援に迅速につなげるようにする。	実施	
	犯罪被害者支援ホッピング事業	総務課	ホッピング事業回収箱設置箇所数	17ヶ所	17ヶ所	全国犯罪被害者週間（11月25日～12月1日）を中心にホッピング事業を実施した。また、市政だよりや市HP等による広報の他、パンフレット等を配架し、啓発に努めた。	A	全国犯罪被害者週間（11月25日～12月1日）に市政だよりへの啓発記事掲載や各種の広報媒体の活用等により広くホッピング事業（本の寄付による支援）への参加を呼び掛ける。	17ヶ所	
	②5	女性のための相談担当者ネットワーク会議の活用	男女共同参画課	他課との連携件数	60件	42件	コロナ禍でネットワーク会議は開催できなかったが、各関係課との連携は迅速に行った。今後も関係課と連携を確認するために開催が必要。	B	DV等の相談があった場合の連携について庁内関係課で意見交換を行い、連携して支援を実施する。	50件
	DVネットワーク会議の活用	男女共同参画課	他機関との連携件数	30件	9件	コロナ禍で会議は実施できなかったが、DV被害者への迅速な対応は、関係する機関と常に情報を共有して、被害者への支援の方向性を一にすることが重要である。DV相談の件数が減少傾向にあるが、DVが減っているとは感じていない。	C	DV被害者の保護や支援について関係機関と意見交換を行い、連携して支援を実施する。	15件	
	困難を抱える女性支援のための研修実施	男女共同参画課	研修参加者数	30人	19人	「夫婦関係にまつわる女性のための法律セミナー」を実施し、その後5人の法律相談に繋がった。	C	女性が抱えることの多い母娘問題、介護問題等について学ぶセミナーを実施し、市民への理解を深める。	各20人	
民間支援団体等との連携	男女共同参画課	実施	—	実施	新たに、NPO法人働きたいおんなたちのネットワークにDV対策ネットワーク会議への参画を求めた。	B	DV被害者支援等に支援を行うNPO等との連携を進めるため、市内支援団体の状況把握に努める。	実施		

計画課題	推進施策	R4実施計画事業名	現担当課	R4成果目標	R4目標値	R4実績	R4実施結果及び課題	評価	R5実施計画取組内容	R5目標値
困難な状況を尊重する女性等への支援と	②6	相談支援体制の強化	保健推進課	実施	—	実施	妊婦面談により母子手帳交付時に全数の妊婦と面談し、状況を把握した。また、妊娠前から支援が必要な人に支援を開始している。	B	妊娠届出時から産前・産後まで支援が必要な女性を把握し、必要な支援につなぐ。	実施
		相談支援体制の強化	こども福祉課	実施	—	実施	男女共同参画課や児童相談所等関係機関と連携し、相談時に必要な支援につなぐことができた。	B	児童扶養手当等の相談や児童虐待相談等の際に支援が必要な場合、必要な支援につなぐ等連携を強化する。	実施
		相談支援体制の強化	生活支援課	実施	—	実施	相談者の困っている状況に応じて、関係機関に繋げる等適切に対応することができた。生活困窮者自立支援制度担当課との連携については、課間の情報共有の難しさがあつた。スムーズに連携していくが課題である。	B	個々の状況を聞き取り、必要な情報の提供及び助言を行い、生活保護受給者の自立の促進を図る。また生活困窮者自立支援制度担当課と相談支援について連携を図っていく。	実施
	②7	相談支援体制の強化・地域包括支援センターにおける総合相談	長寿生きがい課	実施	—	3757	高齢者の健康、介護、福祉などの相談に対応し、必要に応じて支援を実施した。高齢者の総合相談窓口としてセンターの更なる周知を行う。	B	高齢者の相談を実施するなかで、必要に応じて支援を行う。 ・高齢者の健康・介護・福祉などの総合相談対応	実施
		健康相談事業	健康づくり推進課	実施回数	100回	116回	サロン派遣の回数が減少している。専門職による健康相談を実施していることについて周知方法を工夫する必要がある。	A	保健師等の専門職による健康相談を実施し他機関と連携し必要な支援につなげる	150回
		相談支援体制の強化	障害福祉課	実施	—	実施	障害者生活支援センター、指定特定相談支援事業所、身体・知的障害者相談員による相談支援を進めた。総合支援法による計画相談のより一層の普及が課題である。	B	個々の障害の状態に応じた支援が出来るよう、障害者生活支援センター、指定特定相談支援事業所、身体障害者相談員及び知的障害者相談員による相談支援の充実に努める。	実施
生涯を通じた男女の健康支援	②8 ②9 ③0	相談事業（カウンセラー配置）	教育支援課	相談件数	4,900件	4,536件	拠点校へのスクールカウンセラーの配置により児童生徒、保護者、教員の悩み相談に適切に対応できた。スクールカウンセラーのニーズが高まっており、学校からは配置時間数の増加を求める声がある。	A	小中学校の拠点校にスクールカウンセラーを配置し、児童生徒、保護者等からの相談に対応し、対象校にも巡回することで、よりきめ細やかに相談等に応じる。	4,900件
		女性の健康支援セミナーの実施	男女共同参画課	参加人数	30人	30人	「優雅な気分で筋力アップ！チェアバレエ・エクササイズ」と題したセミナーと、ころとからだの相談を実施した。期間中だけでなく、常に女性の健康への意識を高めてもらうことが課題。	A	女性の健康週間（3月）にセミナーを始め、複数の企画を開催し、ころとからだの相談も実施する。	30人
		自殺対策セミナーや生きづらさに対応するセミナーの共催	地域福祉課	実施回数	1回	3回	自殺対策におけるゲートキーパーを養成する研修や、自殺対策強化月間に合わせて若年層の自殺をテーマとしたセミナーを開催した。市民向け広報や民生児童委員への参加呼びかけを行い、自殺対策関連セミナーの継続実施及び機会の充実を図る。	A	宇治市自殺対策計画に基づく「自殺者ゼロ」を目標に、誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現に向けて啓発を行う。	4回
		自殺対策セミナーの共催	男女共同参画課	参加者数	50人	41人	「『うつ』『依存』と上手につきあう～心の健康を保つためのヒント～」と題した講演会を地域福祉課と共催で実施した。	A	自殺対策強化月間（3月）に自殺対策セミナーを共催で実施する。	50人
		健康教育事業	健康づくり推進課	参加者数	800人	1593人	健康教育を行うことで生涯を通じた男女の健康支援を実施した。64歳以下の年齢の参加が少ないため広報等を工夫し周知していく必要がある。	A	保健師等の専門職による健康相談を実施し他機関と連携し必要な支援につなげる	1800人
		子宮頸がん検診・乳がん検診	健康づくり推進課	受診率	50%	子宮頸がん 11.4% 乳がん 15.5%	受診率向上のため、新たな取り組みとして、R4年度より国保特定健診対象者全員に、各種健診・がん検診の一体的勧奨通知を送付するとともに、子宮頸がん・乳がん検診の健診実施期間を2か月延長。延長期間中に再度受診勧奨通知を送付。これらにより、受診者数・受診率は増加した。しかしながら依然目標値とは程遠く、今後も受診率向上に向けた、さらなる周知啓発の強化が必要。	C	がん検診の実施により、市民の健康保持・増進をはかり、がんによる死亡率を減少させる。令和4年度は、成果を上げている現行の個別勧奨の送付数を増加させるとともに、国民保険加入者に対して特定健診と合わせた受診勧奨も行うことでさらなる受診率の向上を図る。	50%

## 基本方向5 協働による男女生き生きまちづくりの推進

【令和4年度の実績】

重点課題：地域防災における男女共同参画の推進

情報発信力の向上と防災力強化を目指して企画力アップ講座を実施しました。  
 また、町内会の防災訓練に危機管理室とともに参加し、男女共同参画の視点を取り入れた研修を行いました。  
 UJIあさぎりフェスティバルを、実行委員の協力のもと、新型コロナウイルス感染症対策を講じて実施することができ、例年と同程度の参加がありました。  
 市民企画事業について、サポート事業では予定数近くの希望団体の応募がありました。事業所や自治会を対象とした地域支援推進事業については、市内の事業所に広報を行いました。応募がなく、有効な実施方法について検討が必要となりました。

【令和5年度の実施計画】

男女共同参画の視点からの防災に取り組むため、防災パンフレットの作成を通じて女性防災リーダーを養成します。また、地域防災の出前講座や地区班の研修等を活かして、女性の視点からの地域防災の取組みを進めます。  
 UJIあさぎりフェスティバルについては、昨年度と同様の9月下旬に実施します。一昨年度より実施している「ここからチャレンジマルシェ」と連携することで、双方の参加者の増加が期待され、市民活動のさらなる促進と啓発に努めます。  
 市民企画事業やギャラリーステップワンの展示での啓発や、男女共同参画支援センター関係団体の加入団体の増加を促進し、男女共同参画のまちづくりに向けた市民活動を推進します。

＜推進施策＞

①男女共同参画の視点を取り入れた地域防災活動の推進／②男女共同参画の視点に立った災害時の対応の推進／③男女共同参画のまちづくりに向けた市民活動の促進／④市民等との連携・協働事業の推進

計画課題	推進施策	R4実施計画事業名	現担当課	R4成果目標	R4目標値	R4実績	R4実施結果及び課題	評価	R5実施計画取組内容	R5目標値
地域防災における男女共同参画の推進	①	企画力アップ講座	男女共同参画課	参加人数	60(3回)	27(3回)	情報発信力の向上と防災力強化を目指したが、焦点がぼやけ参加しづらかったのが参加者集めに苦労した。	C	男女共同参画の視点からの防災パンフレット作成を通じて町内会などに出向き啓発する。	60人
		地域防災の出前講座等実施	危機管理室 男女共同参画課	共催回数	1回	1回	地域防災の出前講座を実施した際に、参加いただいた近隣自治会の住民を対象に、避難所運営における男女共同参画の視点の必要性について講義を実施した。	A	男女共同参画の視点での地域防災の講義を作成し、男女共同参画課と共同して出前講座を実施する。	1回
		避難所運営研修等の実施	危機管理室 男女共同参画課	実施	—	実施	地区班員が、男女共同参画の視点での避難所運営に取り組むことが出来るよう、地区班研修の際に説明を実施した。	B	男女共同参画の視点での避難所運営に取り組むことができるよう、作成した資料を活用するなどにより地区班研修を実施する	実施
市民との協働の推進	③④	あさぎりフェスティバルの実施	男女共同参画課	実施	実施	実施	従来のスタンプラリー形式からクイズ形式にし、WITHコロナでの安全な開催に努めた。子ども向けの企画、大人向けの企画を考えたことで参加者が分散出来たとともに家族での来場者も獲得できた。	B	アフターコロナにおいて安全な開催方法を模索し、実行委員会形式によるあさぎりフェスティバルを開催する。	実施
		男女共同参画支援センター関係団体交流会実施	男女共同参画課	登録団体数	31団体	29団体	コロナ禍により団体活動が制限されたため、要件を緩和し、継続登録を案内したが、団体の後継者不足により退会する団体もあった。	A	関係団体への登録要件を緩和する等により、登録を促進し、団体間の交流と連携を推進する。	31団体
		市民企画事業の実施	男女共同参画課	実施事業数	8事業	7事業	奨励事業とサポート事業では、新規開催団体もあり目標に近い事業数を開催できたが、地域推進支援事業については0件であった。	B	市民や自治会、団体等に対し、市民企画事業として奨励事業や地域推進支援事業、サポート事業の実施を促進し、協働して男女共同参画を推進する。	8事業
		ギャラリーステップワンにおける展示の活用	男女共同参画課	実施事業数	11回	11回	展示ごとに男女共同参画との関連を明示し、観覧者への啓発に努めた。一部出展者からはセンター事業やセンター展示への協力も得られた。	A	市民から男女共同参画の推進に資する活動成果や作品を募集し、展示を行う。	10回

計画課題	推進施策	R4実施計画事業名	現担当課	R4成果目標	R4目標値	R4実績	R4実施結果及び課題	評価	R5実施計画取組内容	R5目標値
市民との協働の推進	③③	男女共同参画による地域コミュニティ活性化に向けた取組の推進	市民協働推進課	実施	-	実施	男女共同参画による地域コミュニティも合わせて、町内会等との意見交換を行った。	B	男女共同参画による地域コミュニティも合わせて、町内会等との意見交換を行う。	実施
	③④	地球温暖化対策推進パートナーシップ会議(ecoット宇治)との協働	環境企画課	女性会員の増	16人	11人	令和4年度において新たな女性会員の加入はなかった。	C	男女が対等な立場で参加できる内容とし、新たな女性会員の参加を目指す。	16人

## Ⅶ. 男女共同参画の推進に関するアンケート調査について

### 1. 調査方法

16歳以上の市民 1,000人を年齢ごとに無作為抽出

### 2. 回収結果

有効回収数 175      有効回収率 17.5%

### 3. 調査時期

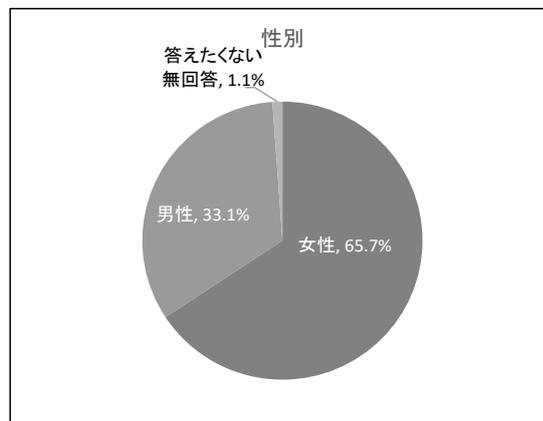
令和5年3月

### 4. 調査結果

#### (1) 性別

単位・人

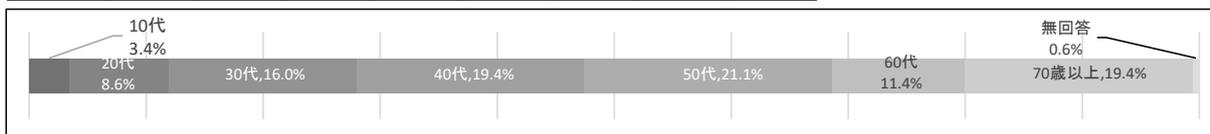
	女性	男性	答えたくない 無回答
回答数	115	58	2
割合	65.7%	33.1%	1.1%



#### (2) 年齢

単位・人

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	無回答
回答数	6	15	28	34	37	20	34	1
割合	3.4%	8.6%	16.0%	19.4%	21.1%	11.4%	19.4%	0.6%



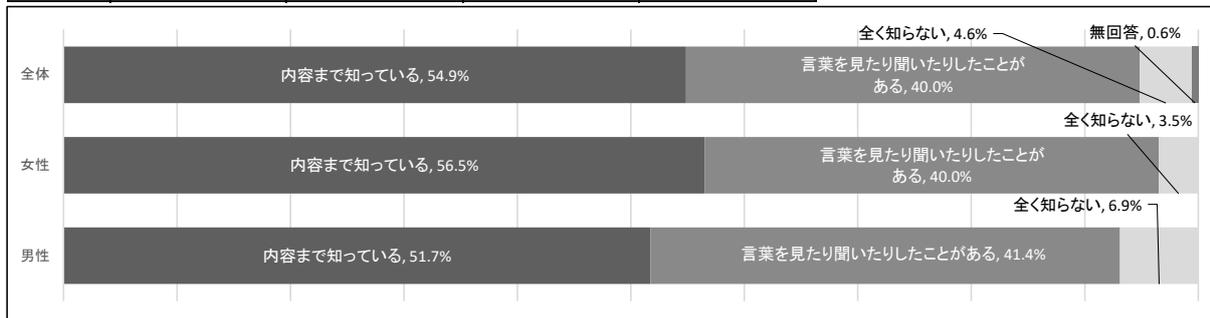
#### (3) 「男女共同参画」という言葉について

	内容まで知っている	言葉を見たり聞いたりしたことがある	全く知らない	無回答
回答数	44	88	42	1
全体	25.1%	50.3%	24.0%	0.6%
女性	20.9%	55.7%	23.5%	0.0%
男性	32.8%	41.4%	25.9%	0.0%
その他	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%



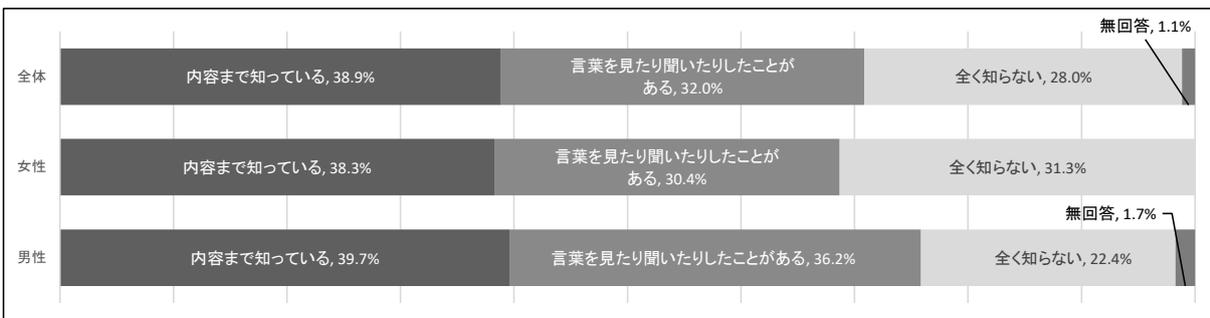
(4)「ジェンダー」という言葉について

	内容まで知っている	言葉を見たり聞いたりしたことがある	全く知らない	無回答
回答数	96	70	8	1
全体	54.9%	40.0%	4.6%	0.6%
女性	56.5%	40.0%	3.5%	0.0%
男性	51.7%	41.4%	6.9%	0.0%
その他	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%



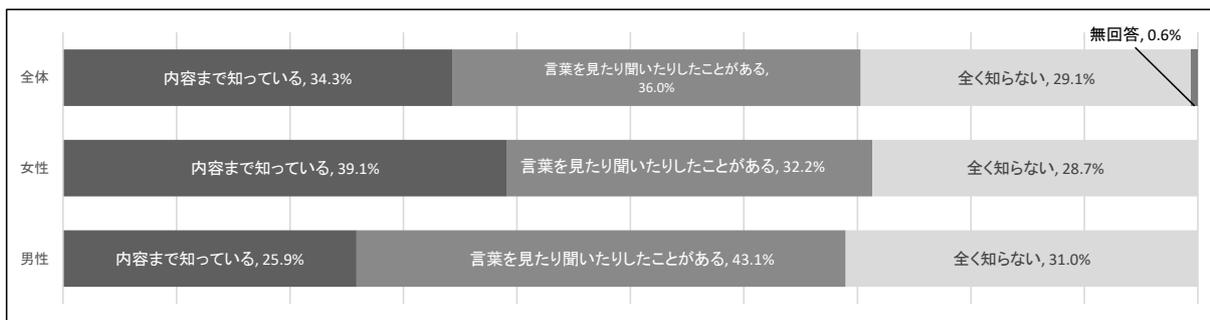
(5)「ワークライフバランス」という言葉について

	内容まで知っている	言葉を見たり聞いたりしたことがある	全く知らない	無回答
回答数	68	56	49	2
全体	38.9%	32.0%	28.0%	1.1%
女性	38.3%	30.4%	31.3%	0.0%
男性	39.7%	36.2%	22.4%	1.7%
その他	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%



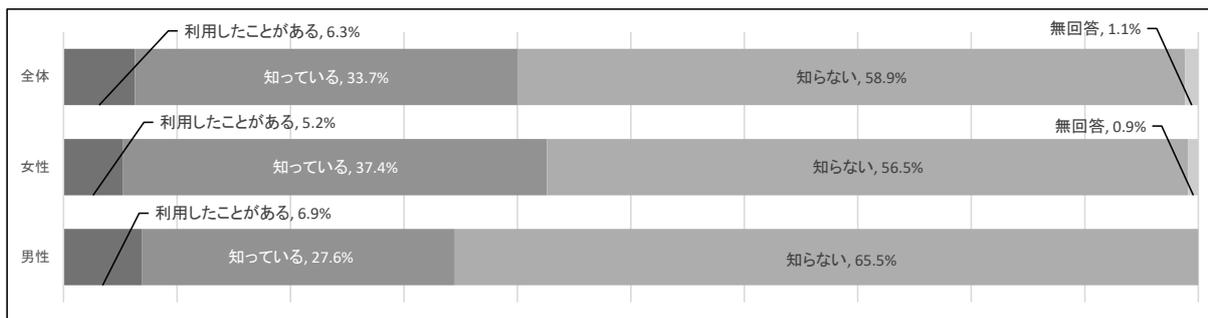
(6)「デートDV」という言葉について

	内容まで知っている	言葉を見たり聞いたりしたことがある	全く知らない	無回答
回答数	60	63	51	1
全体	34.3%	36.0%	29.1%	0.6%
女性	39.1%	32.2%	28.7%	0.0%
男性	25.9%	43.1%	31.0%	0.0%
その他	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%



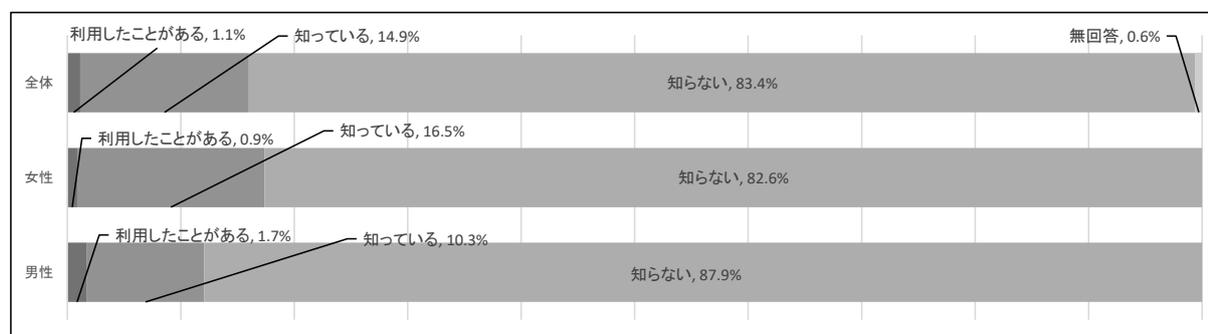
(7)「男女共同参画支援センター(ゆめりあ うじ)」について

	利用したことがある	知っている	知らない	無回答
回答数	11	59	103	2
全体	6.3%	33.7%	58.9%	1.1%
女性	5.2%	37.4%	56.5%	0.9%
男性	6.9%	27.6%	65.5%	0.0%
その他	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%



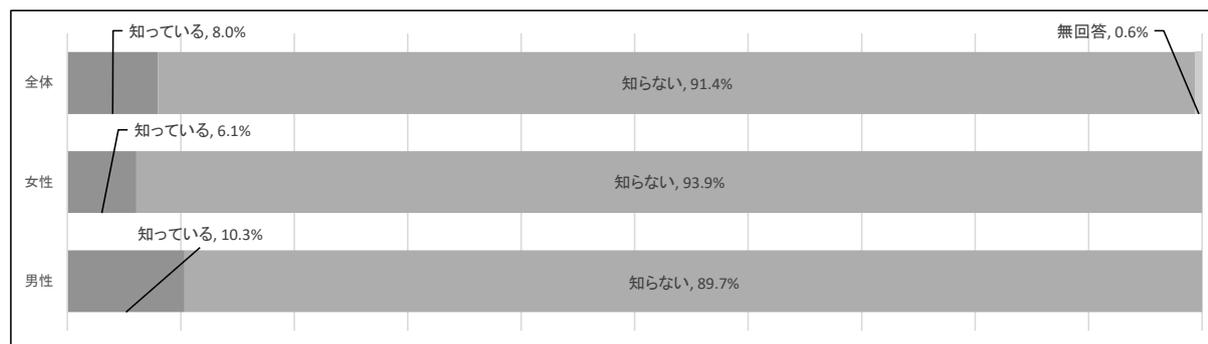
(8)「女性のための相談」について

	利用したことがある	知っている	知らない	無回答
回答数	2	26	146	1
全体	1.1%	14.9%	83.4%	0.6%
女性	0.9%	16.5%	82.6%	0.0%
男性	1.7%	10.3%	87.9%	0.0%
その他	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%



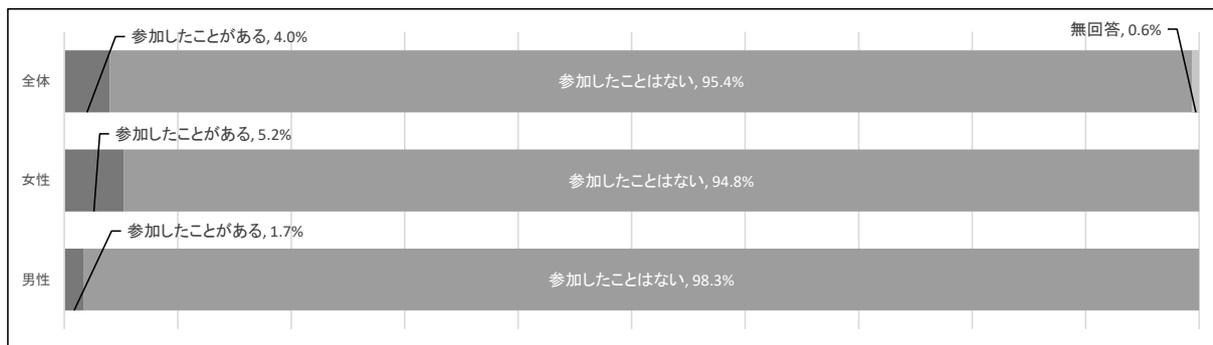
(9)「男性のための電話相談」について

	利用したことがある	知っている	知らない	無回答
回答数	0	14	160	1
全体	0.0%	8.0%	91.4%	0.6%
女性	0.0%	6.1%	93.9%	0.0%
男性	0.0%	10.3%	89.7%	0.0%
その他	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%



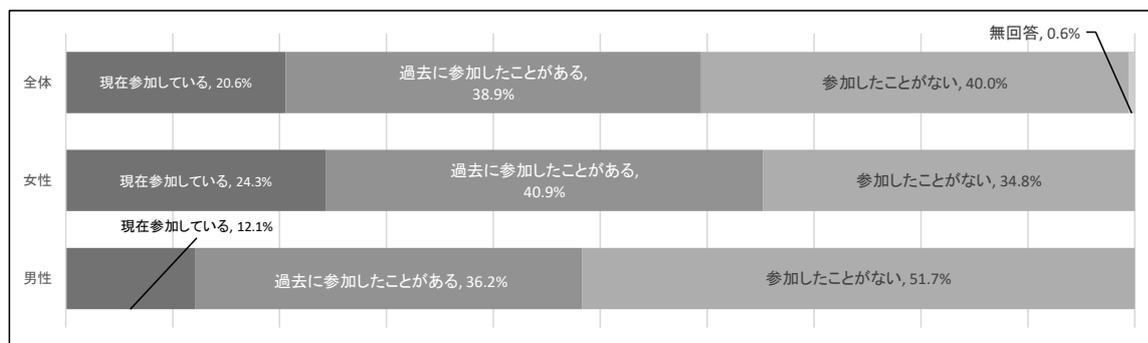
(10)「センターが主催するセミナーや講演会」について(R04のみ)

	参加したことがある	参加したことはない	無回答
回答数	7	167	1
全体	4.0%	95.4%	0.6%
女性	5.2%	94.8%	0.0%
男性	1.7%	98.3%	0.0%
その他	0.0%	50.0%	50.0%



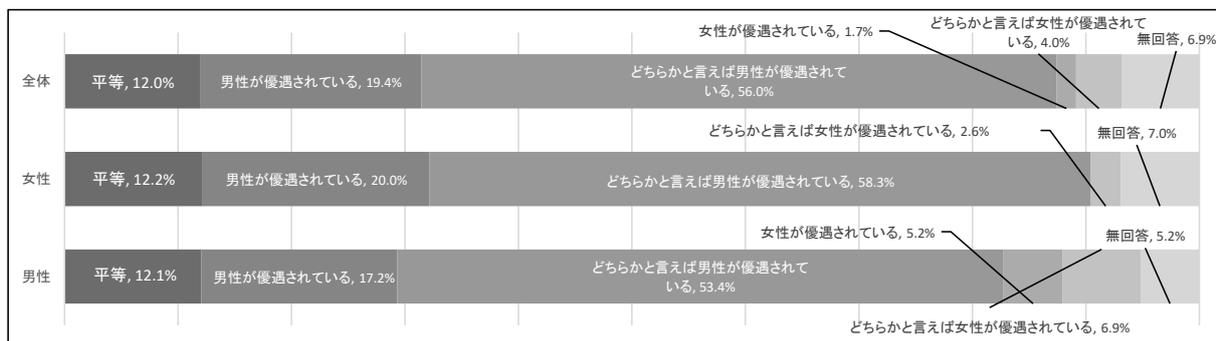
(11)「地域活動への参加状況」について

	現在参加している	過去に参加したことがある	参加したことがない	無回答
回答数	36	68	70	1
全体	20.6%	38.9%	40.0%	0.6%
女性	24.3%	40.9%	34.8%	0.0%
男性	12.1%	36.2%	51.7%	0.0%
その他	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%



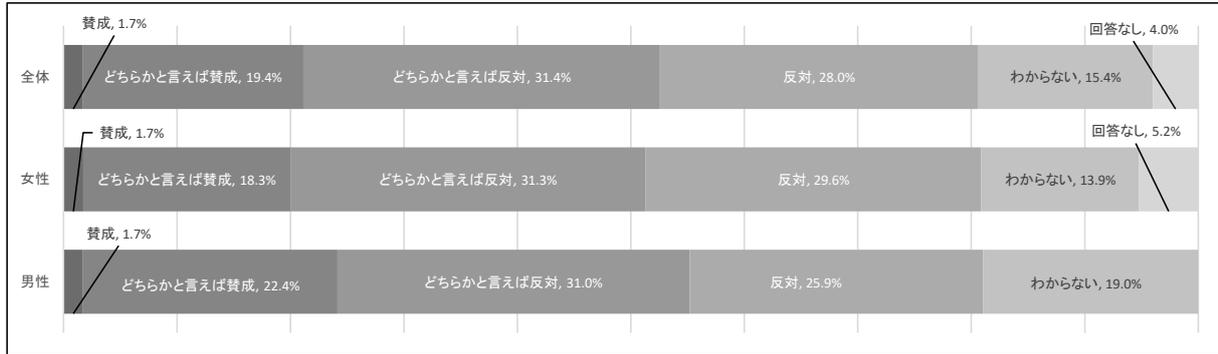
(12)「社会全体での男女の地位」について

	平等	男性が優遇されている	どちらかと言えば男性が優遇されている	女性が優遇されている	どちらかと言えば女性が優遇されている	無回答
回答数	21	34	98	3	7	12
全体	12.0%	19.4%	56.0%	1.7%	4.0%	6.9%
女性	12.2%	20.0%	58.3%	0.0%	2.6%	7.0%
男性	12.1%	17.2%	53.4%	5.2%	6.9%	5.2%
その他	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%



(13)「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考えについて

	賛成	どちらかと言えば賛成	どちらかと言えば反対	反対	わからない	回答なし
回答数	3	34	55	49	27	7
全体	1.7%	19.4%	31.4%	28.0%	15.4%	4.0%
女性	1.7%	18.3%	31.3%	29.6%	13.9%	5.2%
男性	1.7%	22.4%	31.0%	25.9%	19.0%	0.0%
その他	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%



## (14) 女性に対する差別や男女の格差を感じたこと、日頃感じていること（自由記述）

No		性別	年齢
1	表立っては聞かないが、民間企業（特に中小企業）の中には女性の方が勤務評価や手当が少ないという苦情を言う人がいるようだ。中小企業における給与の決め方など調べるのは難しいだろうが…。	男性	60代
2	女性は強くてすごい。男はかなり弱い。	男性	30代
3	「女性に対する差別」や「男女の格差」をいつも感じている。差別をなくそうとする取組みを色々な所でしているのはよいことだが、改善されているとは思わない。国会議員自身がその様な教育を受けていない時代の人達が多いので、元を変えない限り無理だと思う。	女性	60代
4	同じ職種・勤務時間・勤続年数・役職であっても、女性より男性の方が昇給・昇格率が高い。出産時の還付金及び給付金の振込が共働世帯でも夫に振り込まれる。	女性	30代
5	女性が優先、という感じがする。（女性が弱い立場） 男女平等だと思う。	男性	50代
6	同時期に社会に出ても、給料や処遇の格差が広がっていくのを感じる。	女性	50代
7	私は感じたことがない。しかし男性の頭の中には、「共働きであっても俺の方が仕事内容が大変で疲れる。」という考えもあるのではないのかと思う。一日のトータルで大変なのは、家事・育児・仕事をしている女性の方だと思う。これが男女の格差なのかは分かりませんが…。	女性	20代
8	育児に非協力的であったり、養育費を払わない男性が多すぎる。育休を男女共にもっと取得しやすい社会にしてほしい。産婦人科に行く女性を、性に淫らだと思える男性がまだまだ多い。避妊の重要性を軽んじる男性が多い。	女性	20代
9	女性は家事をして当たり前だという風潮がある。今は一人だけの収入で生活に余裕ができるとはいえない。仕事量も考えるべきだ。自分の娘にも、女が家事をして当たり前だと思わせないために、夫は手伝えるのではなく、自分のことは自分ですべきだ。	女性	20代
10	現在妊婦として生活をしている。差別や格差ではないが、女性ではなく働く者に対してのねぎらいの言葉を多くかけられる。（例：お父さん頑張れ、など。）私も頑張っているつもりなので、少し悲しい。	女性	20代
11	同等の業務を行っていても、女性の基本賃金設定が低いことに格差を感じる。	女性	50代
12	職場の50代以上の発言。	男性	30代
13	もっと女性の管理職を増やして、女性の仕事像として当たり前にしてもよいと思う。政治家はまだ男性の方が多いので、難しいのかとも思う。	男性	40代
14	夫は80歳。私は74歳。半世紀前、女性は結婚・出産したら仕事を辞めて家庭に入ることが当然だった。しかし、仕事は続けたかった。もし続けていたら、生活力もあり自分の年金額も違っていたはずだ。夫は家の用事を色々してくれるが、“お前がすることを、俺がやっている”感が出ている。旧人類だから仕方がない。	女性	70代
15	レストランなどでのレディースセット（女性限定メニュー）や女性専用車両など。女性にとって得になるようなことは差別なのではないか、と時々思う。	女性	50代
16	男女平等とはいうものの、家庭内や子育て等では女性ばかり負担が大きい。給料も違う。子育て関係など、これかからはもっと男性にも活躍してほしい。	女性	50代
17	最近では”学校の校長先生”又は”新幹線・タクシー・ダンプ車・生コン車の運転手”などに女性が進出している。男性もぼんやりしていたら職業がなくなるぞ、と思った。	男性	70代
18	なぜ日本は同性結婚（愛）は認められていないのか	女性	20代

## (14) 女性に対する差別や男女の格差を感じたこと、日頃感じていること（自由記述）

No		性別	年齢
19	結婚して出産して、女性も子育てしながら働きやすい環境をみたい風潮ですが、本来なら経済的に余裕があり子育てに専念したいと思う人も思うので、働くか子育てに専念するか選択できる世の中になっていけば良いと思います。	女性	40代
20	一旦、出産などで離職するとなかなか社員で仕事にもどれない、育休中でなく、仕事に戻りたい人のリスクリングが欲しい。	女性	40代
21	身近に「女性差別」を感じることはない。しかし「男女格差」はあると思う。具体的に言えないが。	男性	70代
22	女、男、男女、と声高に言いつるのではなく人として自然体で楽に活動していければよいと思う。	男性	60代
23	女性の方が犯罪にあいやすいのは、「力」の差。弱い立場の人こそ守られる社会になるよう、特に男性の意識改革が必要であると思います。	男性	50代
24	夫は学校教員で、部活動の顧問をしているために休日は部活に行くことがほとんどだ。もう一人女性の担当がいるが家庭での育児があるため、夫がほとんど行っている。夫にも育児をしてほしいが、「女性＝家庭」が学校に蔓延しているため、改善されない。なぜ？	女性	30代
25	多少の格差はあっても仕方がない。全く平等にはならない。	男性	30代
26	男女の賃金格差はまだ有る。	男性	70代
27	格差はあって当然。配慮さえあれば気にならない。平等は配慮が無ければ成り立たないだろう。地位を平等にするなら国会議員の数を日本の男女比に合わせてもよいのではないか。	女性	30代
28	家事・子育ては女性が中心に行うもの、という考えが根強く残っている。共働きが当たり前の世の中なのに、保育園の送迎も母親がしている姿をよく見かける。男性が子育てに参加しやすいように、育休や時短で仕事ができるような環境を整えば、子どもを産み育てやすくなり少子化も止まるのではないか。議員や管理職の男女比率を改善していくべきだと思う。	女性	50代
29	前の職場は営業職で、社員5名のうち女性は私1人であった。上司からは「女の営業職にはあまり強みがない。」や「女の営業職は気が強く見えるから、交際や結婚は無理だろう。」など、「女だから」という言葉を沢山言われた。また、昔の固定的な考え方をする祖父母と同居していたので、「女の子だから料理や掃除をなさい。」と言われた。弟は男だからと優先され、お風呂の順番も先だった。幼い頃から「男性優先」と言われ続け、ずっと不快感があった。「女の子（男の子）なのだからこうしなさい。」という言葉が大嫌いだ。	女性	20代
30	自分自身が小さい頃から「女の子だからお手伝いをしなさい。」と言われて育ったが、家事（料理・洗濯・掃除）については男女関係なく自分でできる方がよい。娘2人を夫と育てているが、「女の子だから〇〇しなさい。」という育て方はしていない。人として生きていくのに必要なスキルだと伝えている。それにもかかわらず、義父（80代）や実父（70代）は「女の子だから…」という古い考え方なので、とてもストレスを感じる。その都度説明するが、分かってもらえない。	女性	40代
31	病院勤務の看護師で、男女格差は考えなかった。子育ても夫の協力が大きかった。	女性	60代
32	面接時に結婚や子供の有無を聞かれ、出世は男性が多い。	女性	40代
33	世の中に「レディースデー」はあるが、「メンズデー」はない。保険会社の保険料もなぜか男性の方が女性より高い。女性にはよく割引があるが、男性にはあまりない。	男性	50代

## (14) 女性に対する差別や男女の格差を感じたこと、日頃感じていること（自由記述）

No		性別	年齢
34	夫が私に対して偉そうな言葉を使う。	女性	60代
35	14. の設問について。「女性に対する差別」という文言（項目）はあるのに、「男性に対する差別」という文言がない。「？」となる。がっかりする。残念だ。	男性	40代
36	国会議員の数は女性の方が極端に少なく、国がこれでは男女格差は無くならないだろうと思う。仕事関係では女性の管理職も増えてきたが、育児等のハンディもあり少ない状況だ。やはり男性社会の固定観念が強く、女性に対する差別だと感じている。	男性	50代
37	女性に対する差別は知られており分かりやすいが、その解消として女性優遇の措置が取られているように思う。	男性	40代
38	男女共同参画について。社会に対する考えばかりが優先されているが、家庭における男女共同参画（男性も家庭を守り、子育てに参加する）も大事だ。出産という重責を担う女性への尊厳を忘れてしまった社会、子どもの「育ててもらふ権利」を忘れてしまった社会が、今日の少子化を招いたのではないか。保育所の整備も大切だが、「仕事の代理は他の人でも可能でも、親の代わりは私以外にできない。」という気持ちを大事にする社会を作してほしい。	女性	70代
39	女性も働く社会になってきた中、13. 「夫は外で働き妻は家庭を守るべきである。」の様な考え方はどうなのかと思う。夫婦が互いにその認識で納得しているのなら良いと考える。皆が幸せになれる世界が訪れるとよい。	女性	20代
40	共働きで対等に働いているはずなのに、子どもが体調不良や台風などで休校になれば、母親が保育園や小学校に迎えに来るのが当然だと思われる時。（パート勤務など）いつでも休める環境でないといけないような授業参観や学校行事に、「女性は働くな、母なら家にいる。」と圧力をかけられているような感じがする。	女性	40代
41	男女平等というのはやはり無理があるのではと思う。女性には子供を産む機能があり、男性にはない。それが差別なのかもしれないが、女性が男性の様に働くことも身体的に無理なことなので仕方ないと思う。	女性	30代
42	共働き家庭で女性の負担が少しでも軽くなるような取組を活発にしてほしい。	男性	70代
43	身近にはないが、ニュースや本などで見聞きする。	女性	10代
44	妻の夜間の外出を制限する。生活費は夫が決め、妻の収入は自由にできない。子どもに何かあった時、共働きにもかかわらず、まず妻に連絡がくる。仕事を中断し、子どもの世話をするのは妻、という暗黙のルールが不愉快。夫も協力するべき。そんな社会になってほしい。妊娠は当たり前なのに、産休・育休が取りにくく、復帰もしづらい現状。キャリアを手放すことなく復帰することが、なぜそんなに難しく受け入れられないのか理解できない。	女性	40代
45	男性が育児休業を取得しやすい職場にする。	女性	40代
46	男性の育児休暇の取りづらさはまだまだ感じる。共働きであっても、男性が育児をしていると「えらいね。」と言われることに違和感がある。女性の家事・子育てに関わる負担が軽減されなければ、子育てしやすい世の中にはならないと思う。	女性	30代
47	最近は女性も社会参加し、優遇されつつあると感じている。	女性	50代

## (14) 女性に対する差別や男女の格差を感じたこと、日頃感じていること（自由記述）

No		性別	年齢
48	クレーム対応で同じ説明をしても、若い女性だと話を聞いてもらえなかったり一方的に怒鳴る人がいる。男性が対応すると納得したり静かになる。同じ年齢・時期に入職しても、男性の方が昇進が早い。給料に差が出る。クライアントからの信用度が違う。男性の方が信頼されやすく感じる。就職活動中に、男性を優先して採用していると感じたことがあった。面接には男性の方が女性より多く残っていた。	女性	30代
49	4歳になる娘が以前、入退院を繰り返していた。その都度母である私が付き添いで一緒に入院をしていた。病院側も、”付き添いは母（女の人）でなければ困る”という感じだったのでとても嫌だった。母（女）であって当たり前、という考えは差別だとずっと感じている。私も仕事をしているので、毎回急な休みをもらわなければならない。男女どちらが付き添っても問題ない、という正しい考えにしてほしい。女の人だけが子どもの世話を頑張るのも差別だと思う。もう少しだけ女性の気持ちを考えてくれたら、差別は減ると思う。正直、30回以上入院に付き添うと疲れる。精神的、体力的にもしんどい。	女性	40代
50	特別差別など感じていない。	女性	60代
51	「宇治茶レディ」の名称変更違和感を覚えた。男性や女性、異性愛者等、少し前に「普通」だと言われた人たちが、性的マイノリティの人々に差別され始めているような気がしている。自分はどちらかというマイノリティ側の人間だが、次々と名称を変更したりするまでは望んでいない。「女性に対する差別」や「男女の格差」についても、社会全体での個人の意見などからそう感じることはあるが、それは個人の意識の問題なので、そこまで敏感に捉える必要はあまりないのではないかと思う。	女性	10代
52	生物学上、オスとメスであり、身体の造りや構造が異なる。ジェンダーの視点から平等を目指すのは良いが、本質として平等となることは生物である以上不可能である。女性の地位向上の一環として？レディースデーなどの企画が世に溢れている。なぜメンズデーはないのか？女尊男卑だと感じる。男・女という枠を超えて長所を伸ばせば良い。平等にしようとする日本古風の考えは古い。	男性	20代
53	男女共同参画は誰にとっても理想的な社会だと思う。私が勤務していた頃に男女雇用機会均等法が制定された。男性職員の中には”女性も同じように仕事をせよ”と理解した人も多かったように思う。男・女は各々特性がある。あらゆる機会均等にあるべきだと思うが、例えば全体の何割かを女性にするべきというやり方には賛成しない。今もって、女性の上司で…と抵抗を示す人もいる。互いの性別を尊重し、出来る人を認める、広い視野をもった共同参画社会が実現するように願っている。	女性	70代
54	女性を優遇する実績を求める組織方針により、男女共に不利益を受けている所もある。業務には適材適所があり、何でも女性・男性を増やせばよいものではない。実績（数字）ばかりを求めてはいけない。	男性	30代
55	アンケートを機会に関心を持った。今は膝を痛めているので参加は困難かもしれないが、商業新聞・府民だより・市政だより等の報道を注視して、参加できるものがあれば参加したい。勉強をしたり、新しい人と親しくなったり、日常生活を活性化していつまでも若く元気に生活したいと思う。	女性	70代
56	給与、昇進、全般。	女性	30代
57	所得差等、結果として男性の方が高くなっているが、幼い頃からのイメージで、女性自身にそこまで出世意欲が無い人が多い事が原因のような印象がある。身の回りでも不当に男女差別を受けている女性は少ないが、力仕事や残業が多くなりそうな仕事に男性があてがわれている印象もある。	女性	20代
58	専業主婦・専業育児が前提の社会と、共働きを進める社会の溝が大きい気がする。女性が社会で働き、平等に出世することができることと同様に、産み育てることも可能な社会であればよいと思う。	女性	30代

## (15) その他、男女共同参画について自由な意見

No		性別	年齢
1	出会いの場が平等にほしい。	男性	30代
2	自分が感じた差別的なことを、少しでも感じる事が無い社会になれば良いと思う。	女性	30代
3	興味がある人に向けてイベントをすることも大切だが、男女平等の考えが欠如している人が無意識に人を傷つける発言・行動をしていることもある。そういった人向けにも啓発が必要だと思う。難しいが。	女性	20代
4	小さな子にも教える機会や、ディベートなどができる機会。	女性	20代
5	イベントの存在を知る機会がない。もっと広く市民に向けた広報の仕方を考えてほしい。	男性	40代
6	男女を問わず高齢化が進んでいることは間違いない。お互いに少しでも元気で長生きしたい。若い人たちの邪魔になるよりは、参考になる生き方をしたいものだ。このようなテーマでよい話を聞かせてくれる人に会いたい。	男性	70代
7	イベントがあることが分からない。もう少しアピールしてほしい。	女性	20代
8	宇治市の取り組みをもっともっと広報してほしい。	男性	70代
9	私はとても繊細で敏感（五感）な気質の”HSP”なので、疲れやすく生きづらいことが多い。HSPの交流会や居場所（施設）があればとても助かる。講演会も開催してほしい。個性を大切に多様性を認めあう、優しい社会・地域であってほしい。不安症・パニック症・不眠症でほぼひきこもり状態だが、少しずつ前を向いて日々感謝して生きている。	女性	40代
10	勉強不足で男女共同参画支援センターがあることを知らなかった。誰にも相談できずにおかしくなりそうな時期があるので、気軽に話を聞いてもらえる機会などがあればよいと思う。堅苦しくなく、アットホームな温かい感じのイベントなどがあれば参加してみたい。	女性	20代
11	女性やトランスジェンダーの方たちを積極的に採用している会社や団体等があれば、運営方法や、周囲の人達の理解をどのように深めているのかなどを聞いてみたい。	女性	40代
12	アンガーマネジメント。職場で不当な扱いを受けた時の対応策。	女性	40代
13	私は結婚願望がないので、単身女性に焦点を当てた企画があればよいと思う。インターネットで概要や記事が読めればよいと思う。	女性	30代
14	市民に対し、もう少し積極的に支援センターの取組みをPRしてほしい。参加が活発になるようにしてほしい。	男性	70代
15	男女共同参画支援センターがどのような取組をしているのか知らなかったのでもう少し情報発信をしてほしい。本当に悩んだり困っている人は相談できる場所を探して予約をしたりセミナーに参加したりするかもしれないが。広く男女共同参画について知ってもらうために、学校や職場に講師を招いてセミナーを開催したり、出張で窓口相談を開設するなどあってもよいと思う。	女性	30代
16	宇治市民の色々な世代の方と気軽に交流できる場所の提供と企画をお願いしたい。多くの方（有名な人ではなく、普通の人）と話ができる企画を考えてほしい。その中で、男女共同参画や社会を潤滑にまわすアイデア、経験からくる職業関係のアイデア等が生まれるかもしれない。忙しい働き世代の人たちの手の行き届かない所を、補助的にお手伝いできたらとも思う。考える良い機会をありがとう。頑張してほしい。	女性	70代